

2007年3月号

<http://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/arch-prep.html>

あーち通信

Vol.18

神戸大学大学院総合人間科学研究科
ヒューマン・コミュニティ創成研究センター サテライト施設「のびやかスペースあーち」

〒657-0057 神戸市灘区神ノ木通3-6-18 TEL/FAX: 078-805-6090 e-mail: zda@kobe-u.ac.jp または itoa@kobe-u.ac.jp

プログラム紹介

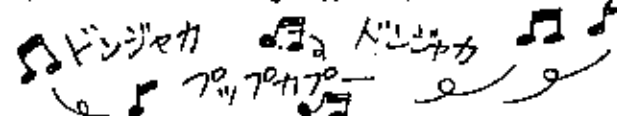
特別版 音楽の広場

ひなまつりバージョン



アコの音楽家集団、三田村管打団の8人が登場して、みんなといっしょに遊びます。

赤ちゃんから お年寄りの方まで、どなたでもどうぞ。



▶ 3月3日(土) PM 2時~4時 (おぼあちにて)

おとなも
子どもも

アートセラピー



柴崎千桂子さん他、アートセラピスト4人が子ども向けと おとな向けのアートセラピーを同時に開催。お子さまづれでも、おとなだけでも参加OKです。絵の中に潜む自分を発見しながら、楽しいアート空間づくりを!

▶ 3月28日(水)・29日(木)
両日とも PM 2時~4時

両日参加をおすすめします。



えんじえる君 by Bon

5本指はむずかしい



3本指のうしろは
なかなか、うまく
5本指の手袋が、きつ
あつた



5本指が、きつ
えんじえる君も、きつ
上手に、5本指が
いれられない。



変なふうに入ると
すぐぬがたがる。



ぞろぞろは、きつ
はめてほしいし...



そんな母も
5本指のうしろは
きつにくい。

も	プログラム紹介-えんじえる君... 1P	研究集会の報告... 3P
く	3月の予定表... 2P	たかしの絵... 4P
じ	3P3Cのあつたこれ... 3P	たかしの出会い... 4P

4月3月のよてい表



●		こらぼあーち	あーとあーち	ふらっとあーち	特別プログラム ●
1	木		おり紙遊び 2時半～		展覧会最終日
2	金	ほのぼの音ランド 11時～ 居場所づくり(予約制)	叶うアート 2時～5時		
3	土				音楽の広場 2時～4時 『ひなまつりバージョン』
4	日	休 館 			
5	月				
6	火	ほっと(予約制)			
7	水			おひさま 午前中	ライフストーリーセミナー 6時半～
8	木		筆をもとう 1時～2時半 めだか親子クラブ 3時～		
9	金	居場所づくり(予約制) おかあさんのための遊ゆうタイム 3時～4時半	らくがきおばさんがやってきた 3時～5時	まめっちよわらべうた ♪ 午前中	
10	土		立体の紙工作 3時～		パパママセミナー同窓会
11	日	休 館			
12	月				
13	火	ほっと(予約制)	おり紙遊び 2時半～		
14	水	ほのぼの音ランド 11時～ ♪			
15	木				
16	金	あーち DE よさこい 3時～ 居場所づくり(予約制)		人形あそび 2時半～	
17	土	ほっとらっく(予約制)		紙しばい 11時～	
18	日	休 館 			
19	月				
20	火	ほっと(予約制)			
21	水	休 館			
22	木		筆をもとう 1時～2時半 めだか親子クラブ 3時～		
23	金	居場所づくり(予約制)	らくがきおばさんがやってきた 3時～5時	まめっちよわらべうた ♪ 午前中	
24	土	おはなしの国 3時～ 音楽の広場 1時半～3時 ♪			
25	日	休 館			
26	月				
27	火	ほっと(予約制)	おり紙遊び 2時半～		
28	水	ほっと(予約制)	布ぞうり作り		アートセラピー 2時～4時
29	木				アートセラピー 2時～4時
30	金			まめっちよわらべうた 午前中	
31	土				

※プログラムへの参加年齢の制限はありません。
 ※プログラムの詳細はくつ箱上のファイルをごらんください。
 ※予定は都合により変更することがあります。
 ※どのプログラムも参加(見学)することができます。
 お気軽に受付までお声をおかけください。



＜プログラムの問い合わせ先＞

のびやかスペースあーち 078-805-6090
 10:30～17:00 (金曜～19:00) 日月祝休み
 発行 あーち通信編集委員会





おやこのくつろぎ空間 **ふらっと**
毎日 10 時半～4 時半

おひささ 保育士さんによる親子遊び
第1・3 水曜午前中 15 分程度

0才から楽しめるプログラム
紙しばい **人形あそび**
人形劇 奇数月 第2土曜

授乳室

受付

出入口

造形プログラム

叶うアート
うぐさおばさんがやってきた

いろんな遊びを教えてください

めだか親子クラブ **立体の紙工作** **おい紙遊び**

筆をもとう 習字を始めませんか

自然とふれあう**サイエンスプログラム** 不定期



情報コーナー



音楽の広場
ほのほの音ランド

水曜(偶数月生まれ)
金曜(奇数月生まれ)

絵本の読み聞かせ **おはなしの国**

スリング交流会 不定期
スリングに興味のある方どうぞ

みんなで踊ろうよ
あーち DE よさこい

ほった学習会
思春期の子育てを考える会

<予約制のプログラム>
発達障害をもつ子どもの親の
ほっとらっく
就学前の障害児支援プログラム
ほっと
障害児者のための居場所づくり

画材道具

あーちのルール

☆あーち会員は、ふらっとあーち・あーとあーち・こらぽあーちのどのプログラムにも参加できます。

☆飲食は、情報コーナー(終日)かふらっと(12時～1時)でできます。

☆オムツやゴミは持ち帰りましょう。

あーとあーち・こらぽあーちの使い方

☆プログラムのないときでも自由に使えます。

就学前のお子さんが遊ぶときは保護者の付き添いが必要です。

☆使い終わった画材道具や本は、もとの場所に返しましょう。



「あーち」のような地域の居場所をテーマにした国際研究集会の報告

2月3日(土)に神戸大学発達科学部で、障害のある人たちの地域の居場所をめぐって、標題のような集会を開催しました。

仙台、大阪、西宮、イギリス、韓国、フランスといった地域での実践についてお話ししていただき、それぞれ障害のある人たちが地域の中で排除されずに生き生きと関わりを持つことの大切さや、そのための方法が話し合われました。特に、イギリスの方からは、障害のある人たちの権利擁護システムがどのように機能しているか、韓国の方からは、地域福祉の拠点として各地で特色ある事業を展開している福祉館の可能性について、興味深いお話をうかがいました。

また単なる報告ばかりでなく、「あーち」を含めて日本の取り組みを体験していただいたイギリスと韓国の実践者に、日本の現状を鳥瞰的に評価してもらいました。その中で、イギリスの方も韓国の方も、「あーち」のような取り組みに「目を開かされる思い」といった評価をされました。いろいろな人たちが対等に会える場所で、障害のある人たちも大切にされ十分に参加できるようにするという実践場面を見ていただいたので、印象がとても良かったのだと思います。「あーち」のような場所が、文化や国境を越えて必要とされているということ、また新しい実践モデルとして認められ得ることが実感されました。

この集会の資料集『インクルージブな地域社会に向けた拠点づくり』を作成しましたので、ご興味のある方はお申し出ください。

※支援を伴う共生

(津田)

たくさんさんの矢印がたくさんさんの出会い

～架け橋としてのあーち～
上坂 典子

3月になりました。年度末を迎え、あーち通信もリニューアルします。この育児情報コーナーは、第7号(2006年4月号)から1年間、1児の母親である私が担当してきましたが、次号からは数人の現役ママで記事を考え、隔月となります。今回は1年間を通して、私が感じたことをふりかえってみました。

まず、あーち通信に関わるようになり、「あーち通信編集委員」という立派な肩書きをいただきました。区役所や図書館などでお話をうかがった時には、とても編集委員とは名乗れず、「編集お手伝い」と説明していたら、「ボランティアの方なんですわ、ごろうさまです。」などと言われ、戸惑ったりもしました。私としては、ただやりたいことをやっていただけだったのですが、あーちに関わるたくさんさんのボランティアの一人、「編集ボランティアスタッフ」といったふうに他の方からはとらえられていたようです。

私は、あーちに対して利用者である母親からも『矢印』を出してみよう、と手伝いを申し出ました。それまであーちに子育て支援をしてもらっていた私から、あーちへ『逆方向の矢印』を出そう、と考えたのです。母親の声も反映した通信になったらいいな、と単純な思いもありましたし、育児中の私でも何か役に立てたらいいな、という思いもありました。そして、なにより「やってみたい!」と思ったのです。その気持ちはまさしく自発的!! ボランティア=自発的に社会的事業などに参加する人(大辞林より)という定義にあてはまるのだな、と後から気がついたりました。

そんな私ですが、あーちにお世話になるまでは、ボランティア活動とは、どこか遠くの誰かがやることのように思っていました。特に積極的に社会活動に

関わることもありませんでしたし、そんな気持ちになることもありませんでした。

なぜ、「あーちの手伝いをしたい」と思ったのか? 最近になって自分でもようやく分かってきました。私は子どもを持って、初めて自分ひとりの力ではどうにもならないこと=育児に突き当たり、本当に困りました。子育ては楽しいけれど、それまで赤ちゃんと接したことがなく不安ばかり、主人は帰りが遅く、近くに頼れる友だちも親戚もいない。典型的なイマドキの核家族育児だったと思います。ママ同士の情報交換(という名の井戸端会議)、地域の方との子どもを通したちょっとしたふれあいで何度も気持ちが楽になりました。その助けられた経験から、私自身も「育児中のお母さんたちの手助けをしたい」と思い、自分なりに活動もしていましたが、さらに場と機会を提供してくれたのがあーちだったようです。

もちろん、他の場所や方法でも手助けはできます! 地域のサークルの運営に関わったり、困っているお母さんに声をかけたり、それも「矢印」のひとつだと思います。

そして、あーち通信を離れ、単なる一利用者としては、あーちでたくさんさんの出会いをもらいました。私からあーちへ一本だけ『矢印』をだしたつもりでしたが、いまでは『矢印』が行ったり来たり交差したり、たくさんさんの『矢印』が重なっていろいろなつながりができました。あーちには『架け橋』という意味もあるそうです。あーちと地域の間にも矢印が行き交い、さらに広がりがつづきます。私の子どもが生まれた年にスタートしたあーちが、今後どのように成長していくのか、とても楽しみです。今後も自分の出来る範囲で応援していこうと思っています。

私は文章を書いたりすることが苦ではなく、みなさんに伝えたいこともあったので、「あーち通信」に関わることになりました。自分にできることを無理なくする、それだけで十分に「矢印」のひとつになります。あーちで、片づけを手伝ったり、バザーに出品したり、プログラムに積極的に参加したり、なんでもいいのでおもしろいことをやってみては?

みなさんの出した「矢印」によって、あーちがもっとステキな場所になり、そして、あなた自身やお子さんにもいいことがあると思います。

編集委員もまだまだ募集中です!

